

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

出願人代理人 鈴木 崇生 殿 あて名 〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7丁目1番20号 第1スエヒロビル ユニアス国際特許事務所		PCT見解書 (法第13条) [PCT規則66]	
		発送日 (日.月.年) 09.09.03	
出願人又は代理人 の書類記号 PCT0308ND		応答期間 上記発送日から 2 月/日以内	
国際出願番号 PCT/JPO3/05078	国際出願日 (日.月.年) 22.04.03	優先日 (日.月.年) 25.04.02	
国際特許分類 (IPC) Int. C17G02B5/02, B32B27/00, B32B7/02, G02F1/1335, G02F9/30			
出願人 (氏名又は名称)			

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。
 I ☒ 見解の基礎
 II ☐ 優先権
 III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 IV ☐ 発明の単一性の欠如
 V ☒ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 VI ☐ ある種の引用文献
 VII ☐ 国際出願の不備
 VIII ☐ 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。
 いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合にに限られることに注意されたい。
 どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。
 なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。
 応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 25.08.04 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 森 口 良 子 電話番号 03-3581-1101 内線 3271	2 V	9 1 2 5
---	--	-----	---------

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項、 出願時に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-10	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-10	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-10	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: WO 01/37007 A1 (KANEKA CORPORATION)

2001. 05. 25 & EP 1160591 A1

文献2: JP 9-193332 A (大日本印刷株式会社)

1997. 07. 29 (ファミリーなし)

文献3: JP 2001-290009 A (日東電工株式会社)

2001. 10. 19 (ファミリーなし)

請求の範囲第1-7, 9, 10に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1及び文献2より進歩性を有しない。

文献1には、側鎖に置換および/または非置換イミド基を有する熱可塑性樹脂と、側鎖に置換および/または非置換フェニル基ならびにニトリル基を有する熱可塑性樹脂を含有してなり、面内位相差に関して、請求の範囲1-7, 9, 10に記載された発明と同様の構成を有する透明フィルムが記載されている。

文献2には、透明基材の表面に、紫外線硬化樹脂および有機微粒子で形成され、表面に微細凹凸面が形成された二軸延伸透明フィルムが記載されており、前記微細凹凸面が、凹凸の平均間隔 (Sm)、中心線平均粗さ (Ra)、十点平均表面粗さ (Rz)、光沢度、透過鮮明度について請求の範囲1-7, 9, 10に記載された発明と同様の構成が記載されている。

文献1も文献2も、共に画像表示装置に、画面の視認性を向上させるために用いられる光学フィルムに関する発明であるから、文献2に記載の透明基材として、文献1の透明フィルムを組み合わせ、請求の範囲1-7, 9, 10に記載された発明と同様の構成を導くことは、当業者であれば容易になし得ることである。

請求の範囲第8項に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1及び文献2及び文献3より進歩性を有しない。

文献3には、凹凸形状表面に低屈折率層を設けた光拡散性シートが記載されている。なお、文献3に記載の技術は周知技術であり、文献1及び文献2に付加して、請求の範囲第8項に記載の構成を導くことは、当業者にとって容易である。

